伊藤圭介先生略傳

嘉士川文庫
490.Z89
It

Kitasato Memorial Medical Library

F
イ
90

490.28
I
No.4568

富士川文庫
328

伊藤圭介先生略傳

先生初め名を舜民、字を戴堯、後に名を清民、字を圭介と改む、幼名左仲通稱圭介、錦窠、太古山樵と號し、別に花繞書屋、十二花樓、等の號あり。

享和三年正月二十七日、名古屋吳服町の家に生る。父は西山玄道、美濃久々利村の人、天明年間名古屋に出で、醫を業とし御目見醫師たり。母は野間氏。三男一女あり、長男は出でて藩醫大河内氏を襲ぎ存眞と稱す。先生は二男にして家督を相續し、父の命に依りて後舊姓伊藤に復す。三男與兵衛は、同藩士川瀨家の養子と爲り、女きい（待十）は鈴木氏に嫁し和歌に名あり。

先生幼にして博物を好み、父兄より醫儒を學ぶの傍、水谷豊文（助六）に從ひ本草物産の學を修め、文政三年十八歲にして、官許を得て醫業を開き、

Kitasato Memorial Medical Library

四年京都に遊び、山本亡羊等斯學の名家と往來し、藤林泰助に就きて洋學を攻め且、時々比叡、鞍馬、愛宕等の諸山に採草す。翌年更に山城、攝津、和泉、伊勢、志摩等の山野を跋渉し、又八月水谷豊文と倶に尾張三河に採藥す。

文政六年吉雄俊藏（常三）に就きて更に洋學を修む。

九年二月、獨人蘭醫シーボルト江戸參府の途次、宮の宿（熱田）を過ぐ。先生水谷豊文、實兄大河内存眞等と倶に之に會見し、學術上互に稗益する所あり、別るゝに臨みて、シーボルト長崎に於て再見せんことを約す、之より先生、長崎遊學の念禁ずる能はず。

十年春、攝津、參河、遠江、駿河の諸州に植物を採集し、五月江戸に出で宇田川榕菴の家に寄居すること一月許、伊東、宇田川の諸氏と倶に日光に採

集す、其旅宿に於て『人參之說』を作る、是れ先生が著はせる最初の論文なりと云ふ。七月江戸を發し、上州榛名、妙義、信州木曾を經て名古屋に歸る。

後數日、再三父兄に懇請の結果、遂に許を得て、八月鄉を發し、美濃、近江其他諸州に採集しつゝ、九月九日長崎に着す歳二十五。夫れより約半歳、吉雄大通辭の家塾に寓して、出島蘭館のシーボルトの許に出入し、植物腊葉の鑑定に從事し熱心に研學す。

翌年歸國の途に就くやシーボルト別を惜み、其珍藏する所の書チユンベリー著『日本植物志（フロラ・ヤポニカ）』を餞として贈る。旅中之を頭陀袋に入れ、頸に懸けて携行し、夜は枕頭に護持して片時も離さず、九州及播州等に植物を探索しつゝ、遂に文政十二年名古屋に於いて『泰西

Kitasato Memorial Medical Library

本草名疏』上下二册『同附錄』一册を刊行す。干時二十七歳。本書によりリンネの植物分類法所謂二十四綱目は始めて本邦に傳へらる。今日植物學上、常用の雄蘂、雌蘂、屬、種などの術語は、實に先生が其譯述に當りて初めて用ひし所なり。又シーボルトの爲に『勾玉考』一篇を草す。

是より先き、在郷先輩の、水谷豊文、大河内存眞、吉田平九郎、大窪太兵衛等同好の士と倶に薬品會を起し、衆人に庶物を縦覧せしめ、爾來後年迄繼續數次開催せられ、延いては本邦博覧會の端緒を作る。又本草研究の結社を設け、嘗百社と名付けて相倶に研學に志す。安政五年五月社中十五名に、美濃飯沼慾齋等社外同游を加へ、勢州菰野山中に數日間滞在、植物の採集を試む。この他、社中の人は、毎年伊吹、戸隠、白山等近國諸山に採草し、毎月例會を開催して斯學の研究に邁進せり。

天保九年江戸に大火あり、江戸城西丸炎上せし爲、尾張藩主より献木の檜材を採伐の用務にて、藩士、人夫等數百人派遣せられたる時、其病用手當醫師として倶に木曾山中へ出張を命ぜられ、假小屋に起臥すること數ケ月、深山幽谷を探り、珍草奇木を檢出することを勘からず。

十二年十二月『啖咭唎國種痘奇書』を校刻して、種牛痘法を紹介し、更に其の普及に努力し、安政元年、新屋敷御様場（タメシ）に於いて人體解剖をなし、文久三年虎列刺病猖獗を極めたる時は、豫防救急の簡法を譯述して『暴瀉（ころり）病手當素人心得書』を刊行頒布し、天保八年の荒年には『救荒食物便覽』を著し、更に洋學を講ずる者の爲には『洋字管篇』『輿地紀畧』等を著し、時局を憂ひては『乍川紀事詩』『表忠詩鈔』等を刊行す。更に安政元年、異國船の來寇傳へらるゝや、三百目加農砲を鑄造し、『丹心報國』の四文字を刻して藩主に献ず。

Kitasato Memorial Medical Library

文久元年九月、五十九歳。幕府より蕃書調所物産學出役を命ぜられ、翌年十月物産局教員となりしも、三年十二月、病を以て洋書調所出役を辭し名古屋に歸る。明治三年大學出仕を命ぜられて再び東上し、以後は東京に移住し專ら植物學の研究に從事し、これより復た刀圭を執らざるに至る。

五年四月、文部省七等出仕、博物專務となり、十年九月、七十五歳にして東京大學理學部員外教授に任じ、植物園に於て植物取調擔當を命ぜられ、傍ら教育博物館へ出勤す。十二年三月、東京學士會院會員に選ばる。十三年十一月、小石川植物園擔任となり、十四年七月、七十九歳にて東京大學教授に任ぜらる。

明治二十一年五月、學位の制定あるや、我國最初の理學博士の學位を承く。二十六年、九十一歳、從四位に叙せらる。

明治三十四年一月二十日、歳九十九を以て東京本郷眞砂町の邸に歿す。同二十四日喪を發す。

危篤の趣　天聽に達するや特に學術上の勳功により男爵を授けられ、勳三等に叙し、勅旨を以て帝國大學名譽教授に任ぜらる。東京植物學會亦名譽會員に推薦す。同二十六日葬儀、同日東京谷中天王寺墓地に葬る。

終りに、我國の植物にして先生の發見に係る物多く、其學名に歐米の學者命ずるに「ケイスケ」の名を以てしたるもの尠からず、左に其數種を記す。

1. Pedicularis Keiskei Franchet et Savatier. せりばしほがま
2. Keiskea Japonica, Miquel. しもばしら
3. Leucothoe Keiskei, Miquel. いはなんてん
4. Gymnadenia Keiskei, Maxim. いはちどり

Kitasato Memorial Medical Library

5. Artemisia Keiskeana, Miquel. いぬよもぎ
6. Rhododendron Keiskei, Miquel. ひかげつゝじ
7. Crepidiastrum Keiskeana (Maximowicz) Nakai. あぜとうな

伊藤圭介先生著述刊本目錄（刊行順）

刊行年次	年齢	書名	冊数
文政十二年	二七	泰西本草名疏、同附錄	三冊
天保八年	三五	救荒食物便覽	一枚刷
天保十二年	三九	萬寶叢書 洋字篇	一冊
同	三九	唉咭唎國種痘奇書	一冊
嘉永元年	四六	乍川紀事詩	二冊
嘉永三年	四八	表忠詩鈔	三冊
嘉永四年	四九	遠西硝石考	四冊
安政元年	五二	萬寶叢書 硝石篇	三冊
安政五年	五六	輿地紀略	一冊
文久三年	六一	暴瀉病手當素人心得書	一冊
明治六年	七一	日本産物志 山城部 武藏部	二冊 二冊

Kitasato Memorial Medical Library

明治七年	七二		近江部	二冊	
明治八年	七三		日本植物圖說草部イ、初篇	一冊	
明治九年	七四		草木乾腊法	一枚刷	
明治十年	七五		日本產物志 美濃部	三冊	
同年	七五		小石川植物園草木目錄前篇	一冊	
明治十二年	七七		日本產物志 信濃部	二冊	
同年	七七		菩多尼訶經（宇田川榕菴譯著覆刻）	一冊	
明治十二、十五、二十六、二十七年	自七二七至九二		西說觀象經（吉雄俊藏譯著覆刻）	一冊	
明治十四年	七九		本邦博物學起源沿革說及同拾遺（東京學士會院雜誌）		
同年	七九		小石川植物園草木目錄後篇	一冊	
自明治十五年至明治二十八年	自八〇三至九二		東京大學 小石川植物園草木圖說卷一	一冊	
明治十五年	八〇		花史雜記（東京學士會院雜誌）		
明治十七年	八二		錦窠翁纂筵誌卷一 品物之部（伊藤篤太郎編）	一冊	
同年	八二		東京大學 小石川植物園草木圖說卷二	一冊	
同年	八二		救荒植物集說（官報）		
明治二十一年	八六		有毒植物集說（官報）		
明治二十三年	八八		多識會誌第一輯（伊藤篤太郎編）	一冊	
同年	八八		多識會誌第二輯（伊藤篤太郎編）	一冊	
同年	八八		錦窠翁纂筵誌卷二（田中芳男編）	一冊	
明治二十四年	八九		錦窠翁纂筵誌卷三書籍之部（田中芳男編）	一冊	
同年	八九		錦窠翁米賀會誌出品書籍解題之部（田中芳男編）	一冊	
明治二十六年	九一		錦窠翁米賀會誌寄贈之書畫並出品解說（宍戶昌編）	一冊	
明治二十七年	九二		錦窠翁九十賀壽博物會誌（伊藤篤太郎編）	上下二冊	
			錦窠古瓦譜（東京學士會院雜誌）		

以上の外、未刊稿本『錦窠植物圖說』、『錦窠魚譜』、『錦窠蟲譜』、『蕃椒圖說』『錦窠竹譜』、『錦窠菌譜』等あり。

以上

Kitasato Memorial Medical Library

昭和十四年一月二十日印刷
昭和十四年一月二十七日發行

（非賣品）

編輯兼發行人　名古屋市昭和區鶴舞町
市立名古屋圖書館内
伊藤圭介先生遺蹟顯彰會

印刷人　名古屋市中區不二見町三九
土屋俊雄

印刷所　名古屋市中區不二見町三九
有信社
電話南㊱二六五六番

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library